

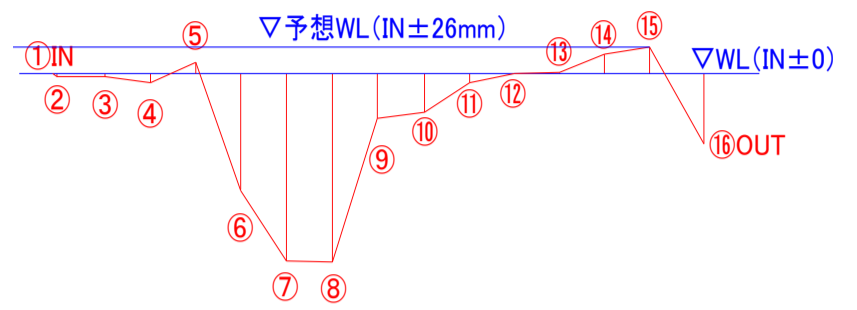
こんにちは、谷本公園の指定管理者「緑とコミュニティーグループ」です。  
令和2年4月21日に水場の整備基本方針を決める「座談会」を行いましたので、結果について報告いたします。

前回の調査で、ビオトープエリアの水位は流入口の①INよりも+26mm程度であることがわかりました。これは、①INよりも上流に水が溜まっていることを意味し、少ない水分供給量の時期に効率的に水を得ることができないため、WL（ウォーターレベル）は①よりも下の高さで調整することが望ましいという結論に達しました。

なお、⑩OUTは、①INより69mm低いのですが、堰を320mmほど設置できる形状のため、多少のWLの調整は可能です。

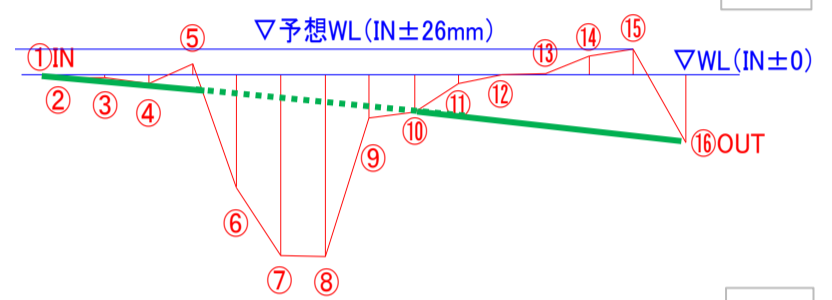
しかし、WLを①INよりも上げると水路に逆流することになるため、堰の高さは最大+69mmとして水位の調整をすることとしました。

そこで、水の通り道の地面形状を縦断的に検討し、最終的に図A・図B・図Cの3案で検討を行いました。

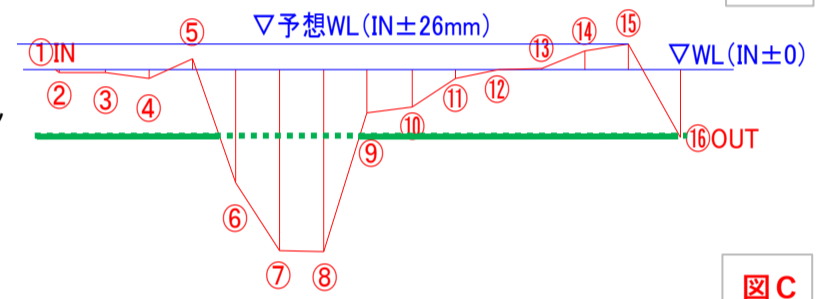


— : 調整後の地面形状の縦断イメージ

図A



図B



図C

### 【図A】

①から⑩までを一定勾配で仕上げるパターン、堰を外す、もしくは下げると、水に流れができる反面、常に水分供給が無いと池部以外には水が無くなってしまう。

### 【図B】

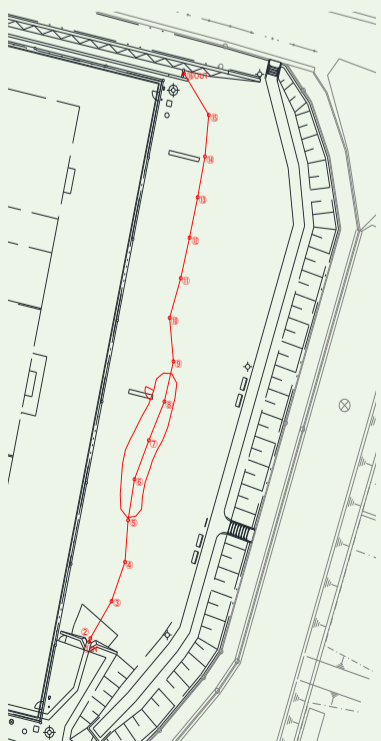
①を69mm下げて⑩までをレベル（水平）で仕上げるパターン、堰を設置してあれば、図Aよりも貯水量は多い。堰を変更すれば水位の調整は出来るが、流れは発生しない。

### 【図C】

図B案の改良版で、①を69mm下げて①及び⑩から池部側に勾配を付けて仕上げるパターン、堰を設置してあれば、図Bよりも貯水量は多く、水分供給の少ない乾燥期にも、池に水を集める効果が期待できる。図Bと同様に流れは発生しない。

### 【結論】

少しでも流れや水に動きがあれば、水中の酸素量が増えたり、水温の安定が見込めるものの、水分供給が常にあるわけでは無い当ビオトープでは、流れを発生させる図A案の選択は難しいと考えられます。そこで、図Bもしくは図C案となりますが、干上がってしまう環境を考慮すると、雨水が少ない際には池部に水量が集中する図Cのメイン水路形状案がいいのではないかと考え、図C案の方針で今後の作業を計画することにしました。



### 【作業方針】

- ◎ ①の部分69mm下げて、①から池まで約2%程度、⑩から池まで約1%程度の勾配を付けて水路を整備する。
- ◎ 水路の整備幅は概ね1m程度とし、水路内の葦類やスギナ類の除去に努める。
- ◎ 撤去後の水路部に葦類の侵入を抑制するために、出来ればルートコントロールを施したいが、作業量、予算、で検討していきたい
- ◎ 底を均して整備を行い、不足や不備は、追加の荒木田土等で整備を検討したい。
- ◎ 流れを単調にしないように、石材などを設置し流れの中での生物の隠れ家を設置したい。
- ◎ 可能であれば、水路の底は砂利層にし、水中微生物の住処を増やして小水系の自浄作用の増加を狙いたい。

上記の方針で作業を計画・実施していきますが、時間がかかると予想されます。新型コロナウイルスが終息した際には、是非ご参加ください。